

開催日時		会名		開催場所
2009年3月12日(木)		第6回診療情報管理勉強会		東医健保会館
18:00~20:00				4階会議室
司会	佐藤達哉		書記	村井はるか、中島歩美
配布資料	プログラム、統計分科会報告、各分科会議事録(1~3月開催分)、「臨床指標を用いた医療評価の動向」(長谷川先生講演資料)、アンケート			
出席者				
欠席者				
テ ー マ				
第1部) 分科会活動発表-DPC分科会・入門分科会・統計分科会				
第2部) 講演会				
経 過				
<p>第1部：分科会活動発表 18:05~19:00</p> <p>1. DPC分科会</p> <p>報告者 三楽病院 初野直美</p> <p>9/25、DPC分科会報告以降、3回(10/22、11/28、2/27)の分科会を開催。今年度の検討課題について話し合い、具体的な活動に取り組み始めた所。</p> <p>①DPCコーディングに関する委員会に関する問題 委員会の開催記録として何をどの範囲まで残しているか?病院により様々 →今後、監査等に対応できる模擬的なものを調査検討し作成予定</p> <p>②ICDコーディングの質に関する問題</p> <p>(1)DPCコーディングの際に利用されるMEDISのマスタに存在するICDコードとICD-10のICDコードの差異から発生するコード付与について</p> <p>(2)DPCコーディングの対象となるRコードについて</p> <p>(3)理由づけのある『.9コード』について 具体的には・・・ 妥当な『.9コード』である病名が存在(単径ヘルニア、急性虫垂炎、合併症のない糖尿病、新生児高ビリルビン血症など)、『.2コード』、『.7コード』でも、詳細不明のコードが存在、など。 →調査を進め、結果報告の予定</p> <p>★その他★</p> <p>分科会開催時に各病院での取り組みの報告、外部からの情報の共有化等がはかれる様になった点が非常に有効</p>				

経 過

2. 入門分科会

報告者 京葉病院 武井美奈

【1月】

12月全体会「病院立入検査」に関する講演会に引き続き、板橋中央総合病院 佐藤達哉 氏に、「指導と監査」に関する講演を依頼

→集団指導と共同指導については、指導後の改善の重要性を理解

カルテの確認、製本、コーディングの重要性を再確認

【2月】

ターミナルディジットの見学

於) 救世軍ブース記念病院

→カルテの管理方法の説明、保管庫の見学によりターミナルディジットを理解

今後の取り組み

- ・機能評価 Ver6.0 の診療記録に関する部分を元にした意見交換の予定

3. 統計分科会

報告者 新葛飾病院 佐藤正親

1年間の問題意識と疑問を持ち寄り、検討・解決した事項、今後の課題について報告を行った。

【統計分科会活動目的】

1人1人が持つ「悩み」を解決しながら意義ある「統計」とは何か考える。

【疾病分類と分類表の利用】

ICD-10 を利用した疾病分類に加え、WHO が作成した製表用分類 (a, b, c 分類) について理解し、利用する。利用する分類により特性が変化するため、見せ方を考える。

【他院との比較】

上記の製表用分類を複数病院で利用すると比較が可能となり、自院の得意分野、そうでない分野が分かりやすくなる。自院の状況に対し、詳細を調査するきっかけともなり、より説得力のある説明をすることができる。

【自院のデータにトピックスをつける】

作成した資料に着目してほしい点と内容を盛り込み、周囲の状況を確認しながらデータを利用する。

【診療情報管理をアピールする】

診療情報管理室が院内で機能するため積極的に委員会や経営会議に統計資料を提出していくことにより、職種の必要性確立に結びついた。また、医師からの統計作成依頼が増加した。

【まとめ】

- ・経験年数に関わらず悩みはあり、本年度は解決するための第1歩を踏み出すチャンスとなった。
- ・自院の特色を熟知することで、1つのデータも院内、院外で形を替えて報告する手法を取得した。

【今後の課題】

- ・基本統計量の使い方
- ・療養型病床の統計作成
- ・a, b, c 分類への問題提起、を行っていく。

経 過

<事務連絡>

- ① 分科会は全員参加、次年度も今年度と同様に継続（質的、量的向上を目指しましょう）
- ② 6/25(木)全体会の予定。内容など詳細は追って連絡
- ③ 平成 21 年度新規運営委員を募集中
→事務局または運営委員まで申し出て下さい。積極的なご参加を！！

<飯田委員長より連絡>

- ① MEDI-TARGET、診療評価アウトカム事業、DPC 分析事業について

第 2 部：講演会 19：00～20：00

講演 「臨床指標を用いた医療評価の動向」

東邦大学医学部 医療政策・経営科学分野

教授 長谷川友紀 先生

- ・医療の質 現在の考え方
- ・プロセスアプローチの実際による診療ガイドラインとパス法
- ・アウトカムアプローチ 臨床指標を用いたベンチマーク
- ・全日本病院協会診療アウトカム評価事業
- ・米国の事例（米国のアウトカム評価）
- ・診療報酬支払（出来高→定額→P 4 Pへ）

次回テーマ

事項	第 7 回診療情報管理勉強会	担当者		期限	
次回開催日（予定）	次回開催場所（予定）	記録作成日	記録作成者		
6 月 25 日(木)	東医健保会館	3 月 16 日	村井・中島		